

第28回（令和4年度第2回）
セーフコミュニティ 児童虐待防止対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和4年12月21日（水） 14:10～

場所：えーるピア久留米 2階

1. 議題

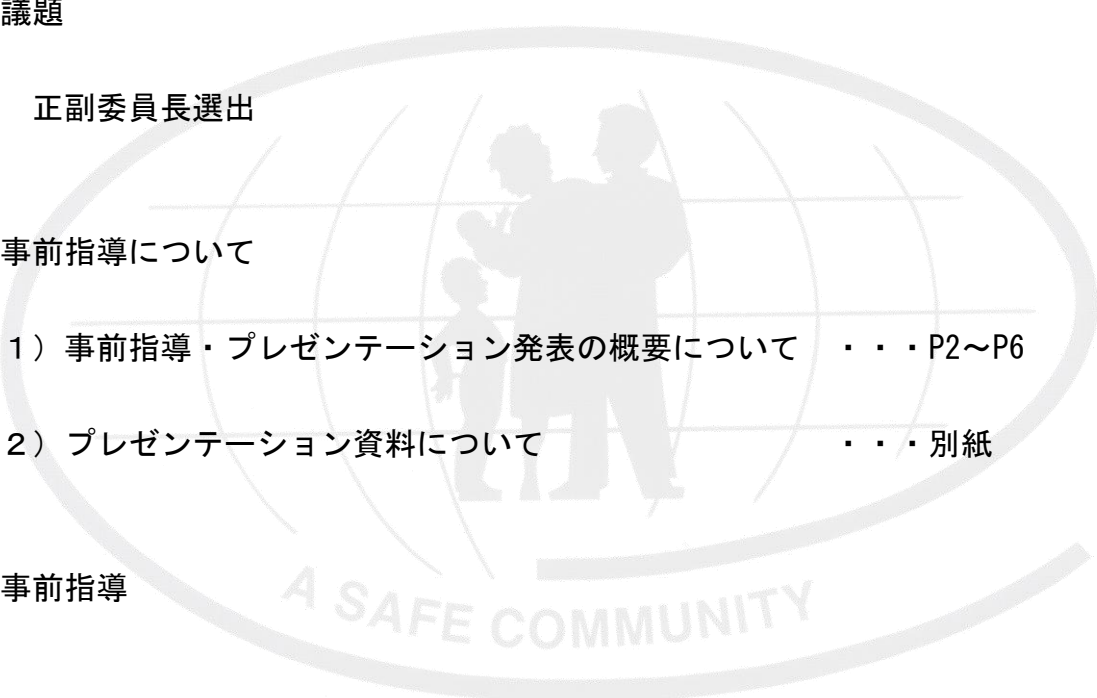
正副委員長選出

2. 事前指導について

（1）事前指導・プレゼンテーション発表の概要について …… P2～P6

（2）プレゼンテーション資料について …… 別紙

3. 事前指導



児童虐待防止対策委員会

対策委員会委員名簿 （順不同、敬称略） 任期：R7.7.31まで

	団体等名称	役職	委員名
1	NPO法人 ル・バトー	代表理事	吉岡 マサヨ
2	久留米市民生委員児童委員協議会	主任児童委員部会長 (合川校区主任児童委員)	佐田 典子
3	久留米市私立幼稚園協会	教育研究委員 (学校法人九州聖公学園理事長)	早川 成
4	一般社団法人 久留米市保育協会	ゆりかご保育園 園長	古賀 誠司
5	NPO法人 にじいろCAP	代表理事	重永 侑紀
6	NPO法人 子育て支援ボランティアくるるん	理事	麻生 睦美
7	久留米市小・中学校PTA連合協議会	PTA家庭教育委員	河津 季仁子
8	久留米市校区まちづくり連絡協議会	幹事(田主丸校区まちづくり振興会会長)	緒方 浩一
9	福岡県久留米児童相談所	相談第一課長	古賀 智美
10	久留米警察署	少年課長	泉沢 晃一
11	久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター	所長	清水 知子
12	久留米市子ども未来部子ども政策課	課長	山崎 貴之
13	久留米市子ども未来部家庭子ども相談課	主幹	寺松 恭子
14	久留米市教育部学校教育課	課長	薄 弘典

事務局：子ども未来部家庭子ども相談課

プロフィール

審査員

◆チョ・ジュンピル(趙 竣秘)◆

- 医学博士
- アジョー大学救急医療部(韓国 水原市) 教授
- 地域安全向上センター(同上)^(*) センター長
- 国際セーフコミュニティネットワーク 副理事長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- “International Distinguished Safe Community Career Award”受賞(2010年)

(*) セーフコミュニティ支援センター・インターナショナルセーフスクール支援・認証センター



1983年 延世大学医学部卒業後、外科医として経験を重ね、1996年より救急外科医となる。受傷による救急外来の患者の治療にあたるなかで治療だけでなく予防の重要性を感じるようになる。その後、アメリカでの研究時代にSCの概念に出会ったことをきっかけに韓国にSCの概念を紹介した。2000年に韓国で初めて水原市がSCを導入した際に支援したことをきっかけに、アジョー大学医学部に地域安全向上センター(韓国におけるSC支援センター・ISS支援及び認証センター)を設置した。

国際SCネットワークの副理事長、アジア地域SC支援センター連合の副理事長として国を越えてSC推進に尽力している。日本においても、ほとんどのSC推進自治体を訪問しており、事前指導や現地指導において、救命救急医としての豊富な経験を生かした支援をいただいている。

◆ワン・シュメイ(王 書梅)◆

- 博士(公衆衛生)
- 復旦大学公衆衛生学部(中国 上海市) 教授
- 国際セーフコミュニティネットワーク 理事
- セーフコミュニティ公認認証審査員



上海医科大学卒業し、公衆衛生において修士号を取得。上海体育研究所(学院)スポーツ医学部や上海医科大学での経験を経て、現在は、復旦大学公衆衛生学部において教授を務める。

2001年に、オランダにて「ヘルシーシティ」を研究した際にセーフコミュニティに関心をもって以来、セーフコミュニティに焦点を置いた研究及び教育を行っている。

国内においては、中国教育省の学校保健及び食の安全専門委員会のメンバーとして研究を進める。また、上海エリアの自治体等へセーフコミュニティ活動の支援及びコーディネートを行っている。

国際的には、日本をはじめ韓国、タイ、ベトナムなどにおいてセーフコミュニティ及びセーフスクールの認証審査の経験を持つ。

コーディネーター

◆ 白石 陽子 ◆

- 博士(政策科学)
- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構(JISC)代表理事
(セーフコミュニティ支援センター)
(インターナショナルセーフスクール認証センター)
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州(アジョー)大学 医学部 客員教授
- "International Distinguished Safe Community Career Award"受賞(2017)



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ(SC)」に出会ったことをきっかけに、セーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。2008年にセーフコミュニティに関する研究により博士号(政策科学)を授与され、立命館大学の研究員としてセーフコミュニティの研究を進めた後、京都大学大学院医学研究科においてセーフコミュニティの研究を進める。2011年にセーフコミュニティ支援センターとして認証され、現在はセーフコミュニティ推進機構代表理事としてセーフコミュニティ活動の支援と研究に専念している。また、同年12月には、「インターナショナルセーフスクール」の認証センターとしても認証された。現在、13の自治体のSC活動を支援するとともに、セーフスクールの推進にも力を注いでいる。



久留米市セーフコミュニティ 児童虐待防止対策委員会

発表日 2022年12月21日
発表者 児童虐待防止対策委員会 吉岡 マサヨ
所 属 NPO法人 ル・バトー

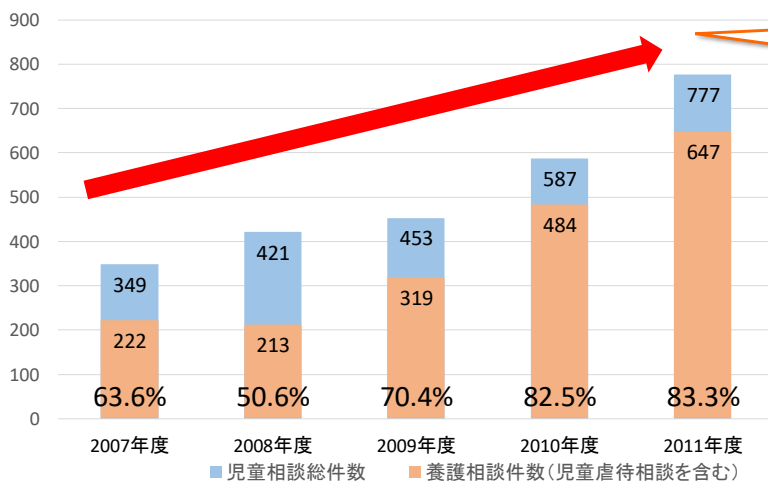
みんなで取り組む安全安心まちづくり

1

1-1. 児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

<単位:件>

【図表1】 児童相談対応件数



児童虐待に関する相談
件数が年々増加傾向

児童虐待防止のため
取組の強化が必要

セーフコミュニティで
児童虐待防止の取組を！

みんなで取り組む安全安心まちづくり

2

1-2.児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

【図表2】 久留米市における児童虐待の重大事件

	発生日	事件名	被害児	加害者
1	2010年6月	傷害致死事件	5歳女児	実母
2	2011年8月	傷害・保護責任者遺棄事件	2歳女児	実母・内夫
3	2012年2月	傷害事件	4歳男児	実父
4	2012年5月	乳児死体遺棄事件	0歳男児	実母
5	2012年7月	傷害事件	5歳女児	実母

久留米市において児童虐待の重大事件が発生



それぞれの家庭が地域から孤立していた



セーフコミュニティで子育て家庭の孤立化を防ぎ児童虐待防止へつなげる

みんなで取り組む安全安心まちづくり

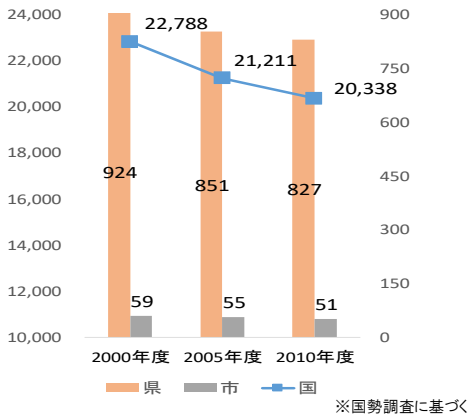
3

1-3.児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

1. 減り続ける子どもの数

【図表3】 国・県・久留米市における子ども(18歳未満)の数の推移

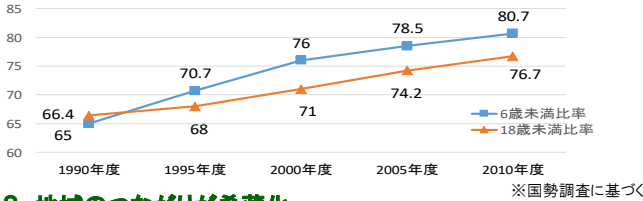
<単位：千人>



2. 子育て家庭の核家族化が進行

【図表4】 子どものいる家庭に占める核家族世帯の推移(久留米市)

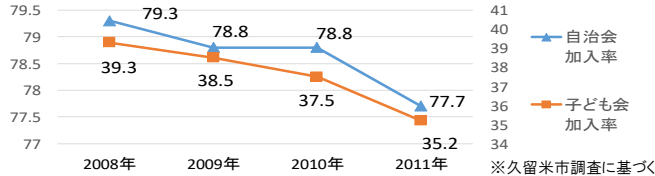
<単位：％>



3. 地域のつながりが希薄化

【図表5】 久留米市内の自治会加入率と子ども会加入率の推移

<単位：％>



みんなで取り組む安全安心まちづくり

4

2.児童虐待防止対策委員会の構成メンバー(2022年現在)

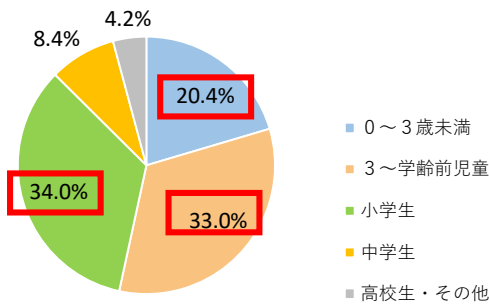
区分	所属
民間団体 住民組織等	1 久留米市私立幼稚園協会
	2 久留米市民生委員児童委員協議会
	3 (一社) 久留米市保育協会
	4 (特活) にじいろC A P
	5 (特活) ル・バトー
	6 (特活) 子育て支援ボランティアくるるん
	7 久留米市小・中学校P T A連合協議会
	8 久留米市校区まちづくり連絡協議会
関係機関	9 福岡県久留米児童相談所
	10 久留米警察署
行政機関	11 久留米市子ども未来部子ども政策課
	12 久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター
	13 久留米市子ども未来部家庭子ども相談課
	14 久留米市教育部学校教育課

2019年追加

3-1.データに基づく課題

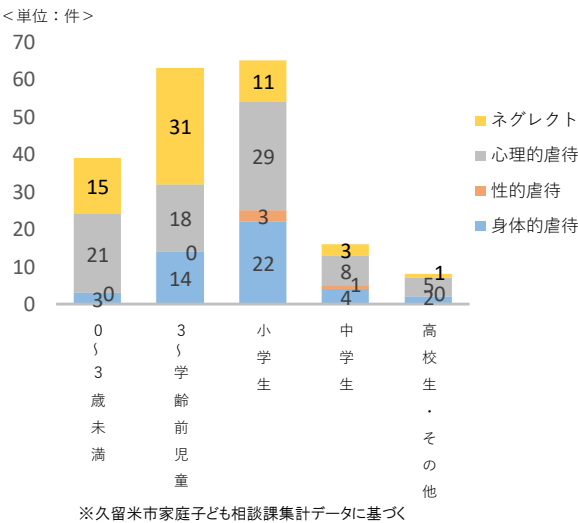
被害者の約87%が小学生以下

【図表 6】 虐待被害者の年齢構成 (2021年度)



※久留米市家庭子ども相談課集計データに基づく <N=191>

【図表 7】 虐待の種類別・年齢別対応件数 (2021年度)

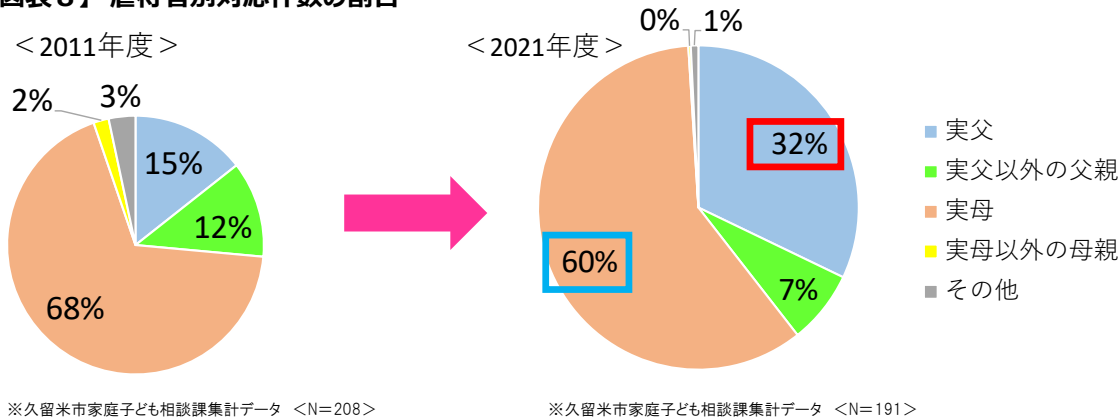


※久留米市家庭子ども相談課集計データに基づく

3-2.データに基づく課題

虐待者の約6割が実母であるが、父親の割合も増えている

【図表 8】 虐待者別対応件数の割合

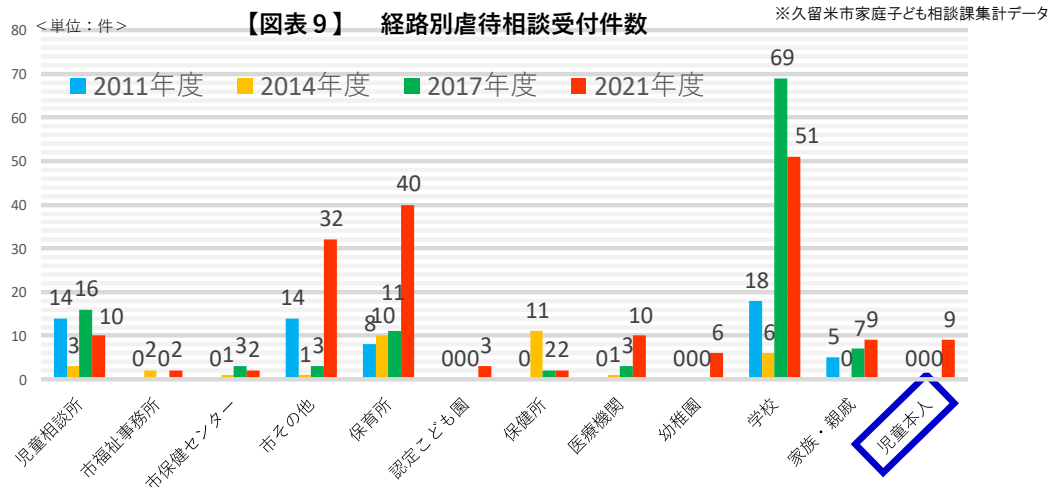


みんなで取り組む安全安心まちづくり

7

3-3.データに基づく課題

子ども自身からの相談が少ない



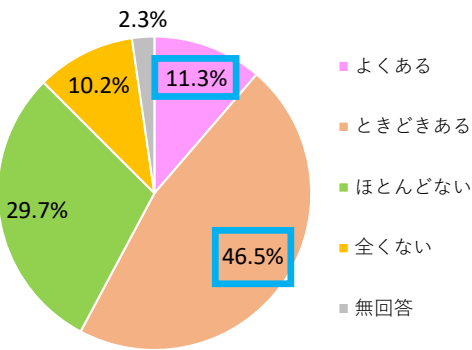
みんなで取り組む安全安心まちづくり

8

3-4.データに基づく課題

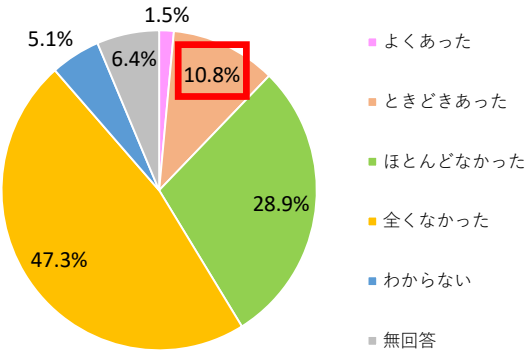
子育ての困難を感じたことがある人が約6割いる

【図表10】子育てに困難を感じるものの有無



※2021年久留米市SC実態調査 <N=471>

【図表11】児童虐待をしているのではないかと感じた経験



※2021年久留米市SC実態調査 <N=471>

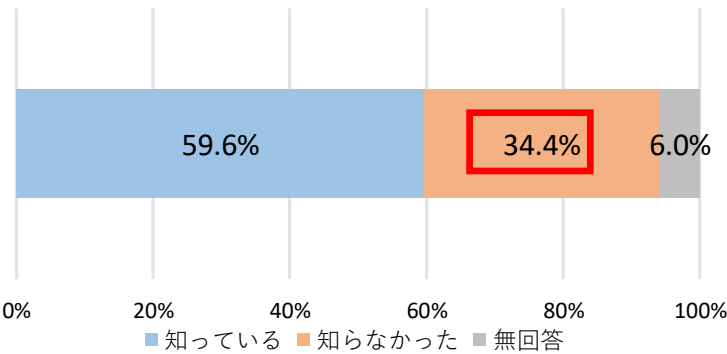
みんなで取り組む安全安心まちづくり

9

3-5.データに基づく課題

子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している

【図表12】子育てに関する相談窓口について



※ 2021年久留米市SC実態調査

みんなで取り組む安全安心まちづくり

10

3-6.データに基づく課題

子育てに困難を感じながらも相談する人がいない人が存在している

【図表 1 3】 子育てに関して相談できる人がいるか【子育ての困難さを感じるかの有無別】（複数回答）

	サンプル数	同居中の家族	友人や知人	他に住んでいる親族	市家庭子ども相談窓口	委員民生委員や主任児童	NPOなど民間の相談機関	県や国の相談機関	その他	相談できる人はいない	無回答
全 体	471 100.0	293 62.2	243 51.6	217 46.1	17 3.6	12 2.5	8 1.7	3 0.6	8 1.7	14 2.9	37 7.9
感 子 育 育 じ 育 る て か の 困 困 難 さ 難 を 無 別 を 別	よくある	53 100.0	28 52.8	28 52.8	24 45.3	7 13.2	4 7.5	2 3.8	0 0.0	5 9.4	2 3.8
	ときどきある	219 100.0	143 65.3	130 59.4	113 51.6	4 1.8	5 2.3	5 2.3	1 0.5	4 1.8	4 1.8
	ほとんどない	140 100.0	94 67.1	70 50.0	62 44.3	5 3.6	3 2.1	1 0.7	1 0.7	0 2.9	15 10.7
	全くない	48 100.0	27 56.3	13 27.1	18 37.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	1 2.1	7 14.6

※ 2021年久留米市SC実態調査

4.課題解決のための目標と具体的施策

課 題	目 標	具体的施策
・虐待者の約6割が実母である【図表 8】 ・子育てに困難を感じる【図表 1 0】 ・相談窓口を知らない人がいる【図表 1 2】 ・相談できない人がいる【図表 1 3】	地域で気軽に相談できる体制作り	①新生児訪問事業の地域連携
・子育てに困難を感じる【図表 1 0】 ・大人になる前に小さな子どもと接する機会が減少している【社会的背景】	命の大切さを学ぶ教育の支援	②赤ちゃんふれあい体験事業
・虐待被害者の多くが小学生以下である【図表 6】 ・子ども自身からの相談が少ない【図表 9】	子ども自ら相談できる体制づくり	③児童虐待防止啓発事業

5.レベル別の対策

【図表14】

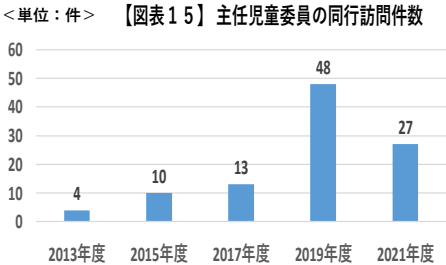
目 標	対 策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
地域で気軽に相談できる体制作り	教育・啓発		相談窓口の周知	
	環境整備		こんにちは赤ちゃん訪問事業	見守り活動
	規 制	子ども子育て支援法		【対策委員会】 ①新生児訪問事業の地域連携
命の大切さを学ぶ教育の支援	教育・啓発		相談窓口の周知 思春期保健出前講座	
	環境整備		校区子育てサロン実施の補助	校区子育てサロンの実施、参加
	規 制	子ども子育て支援法		【対策委員会】 ②赤ちゃんふれあい体験事業
子ども自ら相談できる体制作り	教育・啓発	児童虐待防止推進月間 (オレンジリボン運動)	オレンジリボンキャンペーンの実施	
	環境整備		子どもの権利等啓発事業	研修会への参加
	規 制	児童福祉法、児童虐待の防止等に関する法律		【対策委員会】 ③児童虐待防止啓発事業

6-1-1.取組事例・成果

① 新生児訪問事業の地域連携



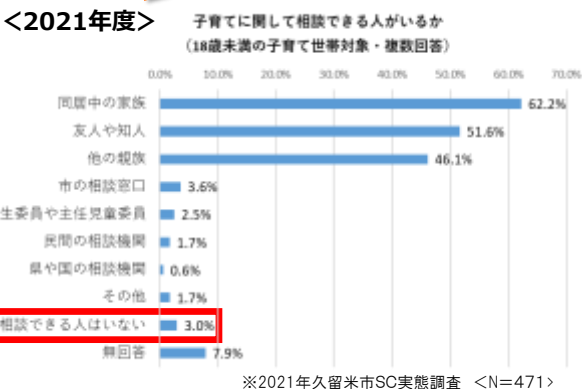
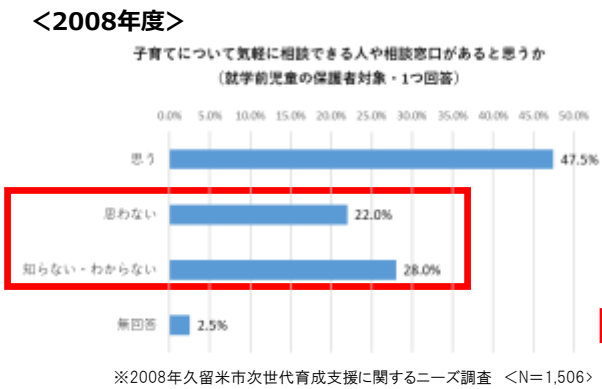
地域で気軽に相談
できるきっかけづくり



6-1-2.取組事例・成果

① 新生児訪問事業の地域連携

【図表 1 6】 子育てに関して相談できる人があるか



「相談できる人はいない」
の割合は少ない

6-2-1.取組事例・成果

② 赤ちゃんふれあい体験事業



命の大切さを学び
自尊感情が高まる

地域の「子育てサロン」
を中学校へ出前

【中学生のアンケート】

- ・赤ちゃんは、とても小さくて、柔らかくて、ちょっとしたことで壊れてしまいそう。
- ・あたたかくて、重さもあって、生きているんだな。
- ・将来、自分の子どもができれば、大切に、いい子どもに育てたい。

6-2-2.取組事例・成果

② 赤ちゃんふれあい体験事業



実施校数

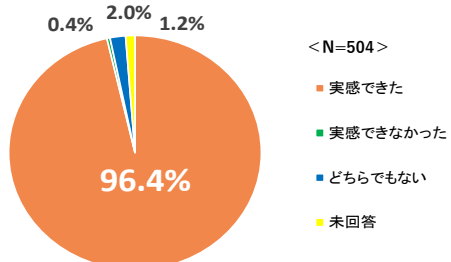
【2012年】

【2017年】

【2019年】



【図表17】赤ちゃんふれあい体験で命の大切さを実感できたか(2019年度)



みんなで取り組む安全安心まちづくり

17

6-3-1.取組事例・成果

③ 児童虐待防止啓発事業



【図表18】啓発チラシの配布枚数

2019年度	3,095枚
2020年度	3,890枚
2021年度	6,686枚



子どもの権利
や児童虐待
についての
知識の向上

みんなで取り組む安全安心まちづくり

18

6-3-2.取組事例・成果

③ 児童虐待防止啓発事業

子ども自身から相談できる体制づくり

児童虐待防止講演会



子ども自らの相談する力等の育成を図る授業

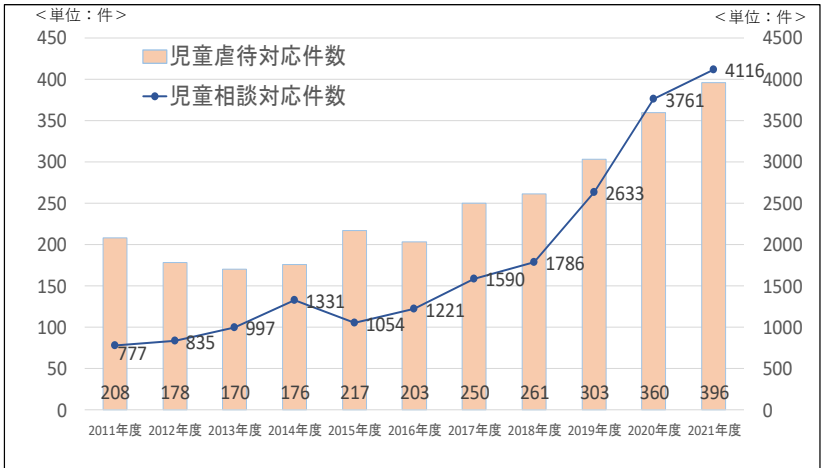


【図表 1 9】 授業・研修の実施数 (2021年度)

市立小学校 小学4年生対象	41校 83学級 約2,350人
教職員向け	43校
地域・団体向け	3地域 82人

7.取組による全体的な成果

【図表 2 0】 児童相談対応件数と児童虐待対応件数の推移



※久留米市家庭子ども相談課集計データ

児童虐待の認識と
相談窓口の認知



相談対応件数
全体の増加



早期発見・
早期対応へ

8.新型コロナウイルス感染拡大防止の工夫 児童虐待防止啓発事業

視聴回数 1,587回



市と関係機関の
窓口で2,000セット



1. 子育て応援動画の配信

2. 啓発グッズの設置・配布

みんなで取り組む安全安心まちづくり

21

9-1.再認証後の変化

1. 子どもが自らの相談する力やS O Sを発信する力の育成



- ・ 小学校4年生へ授業
- ・ 教職員向け研修
- ・ 地域向け研修

子ども自身から
の相談増加

みんなで取り組む安全安心まちづくり

22

9-2.再認証後の変化

2. 対策委員会間や関係機関との連携強化

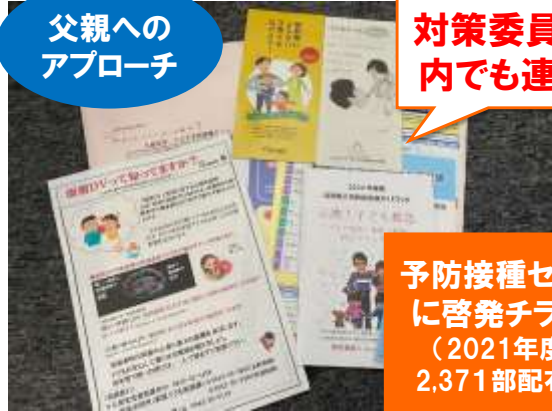
**DV防止
対策委員
会と連携**

**本庁舎
ライトアップ
(2021年度
2日間)**



**父親への
アプローチ**

**対策委員会
内でも連携**



**予防接種セット
に啓発チラシ
(2021年度
2,371部配布)**

みんなで取り組む安全安心まちづくり

23

10.課題と今後の対応

1.父親が虐待者である割合が増えてきている

・父親への啓発の工夫

2.相談窓口を知らない人が一定数いる、相談できていない人がいる

・気軽に相談できる取り組み

3.子ども自身からの相談が少ない

・「子ども自らの相談する力等の育成を図る授業」を継続的に実施



みんなで取り組む安全安心まちづくり

24

ご清聴ありがとうございました。



児童虐待防止対策委員会

